



校長室だより 2

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和5年10月4日
5年度第18号

あっという間にもう暦は10月へ。日中の気温もさすがに真夏日という日はなくなり、朝夕は肌寒さを感じる日もある季節になりましたね。

このところ私は（校長室を訪ねてくる子たちと過ごすのは大休憩だけにして）、昼休みは校内を回り、時にはグラウンドにも出て子供たちの様子を見ています。

昨日（3日）はすっかり季節の終わったヒマワリの花壇で数名の子供たちが集まっています。よく見ると赤トンボに「この指とまれ」と人差し指を伸ばしているところでした。見事指にとまったトンボをそとながめたり、しばらくの間虫かごに入れたり、すぐに逃がしたりと、思い思いに楽しんでいました。学年入り交じって仲良く遊ぶ様子をほほえましく感じました。

地域の皆さんに見守られながら子供が育っています

★4年ぶりの区民体育大会

去る1日（日）は4年ぶりの荻生区民体育大会でした。前日の雨で開催が危ぶまれましたが、小学校グラウンドの水はけのよさにも助けられ、予定どおりに実施されました。小学生の参加は任意でしたが、家族ぐるみでの積極的な参加が多く、本部テントにいた私もほっとしました。

児童の演技である「荻生小唄」に地域の方も数名飛び入りで参加してくださり、小雨交じりの中でも元気よく皆で踊りました。その後は次第に天気もよくなり、子供たちはボウリング競争や玉入れなどで大人と一緒に競技を楽しみました。地域の大人が真剣に力を込める「綱引き」等の応援をしたり（小学校の運動会にはない競技が多く、興味津々で見ているようです）、保育所の子供たちのお遊戯発表を懐かしそうに見たりして楽しんでいました。

また、荻生体協の浅野さん（大会委員長）の発案で、急きょ子供たちが競技中の実況応援をさせていただきました。マイクを通して元気よく「ガンバレー」と呼びかけて、大会の雰囲気盛り上げていました。

学校の運動会とは違うリラックスした雰囲気の中で、地域の大人に大切にされながら行事に参加できた荻っ子たちは本当に幸せだと思います。

ちなみに、この日、黒部市内で予定どおりグラウンドでの体育大会を実施したのは荻生地区だけだったそうです。

★秋の「さわやかあいさつ運動」スタート！

学校では今週から秋の「さわやかあいさつ運動」がスタートしました。日替わりの担当学年が地域の皆さんと一緒に校門付近であいさつを行います。初日の3日（火）は公民館、児童民生委員やPTA役員等の皆さんと6年生の担当でした。天気もよく、自分から「おはようございます」とあいさつする子、呼びかけられてからあいさつを返す子などさまざまでしたが、どの子の表情もにこやかでよかったです。

自治振興会の松島会長は「子供たちから元気をもらえるね」と言っておられました。子供は地域の宝です。地域の皆さんに見守られながら荻っ子はますます元気に育っていくことでしょう。



★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

校長室だより第18号への感想


年 児童名

9月の短歌「運動会」を全校から募集しました。入賞作を紹介します！

- 一年前自分にちかったもくひょうへ走るぞ早く 一いはおれだ (2年Kさん)
- グラウンド赤白どうしの熱い声 風にも負けぬ荻っ子パワー (5年Aさん)
- 楽しみはさいごのけっかはっぴょうでドキドキしながらまつアナウンス (2年Tさん)
- うんどうかいリレーでこけたいたたたた まけたくないよあとはまかせた (2年Mさん)
- 本番で一人一人が力を合わせとつてもすてきな音楽隊に (6年Kさん)
- おべん当からあげ多すぎうれしいな ママのおうえんつたわったよ！ (2年Yさん)

今回は希望者だけの応募としましたが、校長室前の短歌ポストに54首の短歌が集まりました。みんながそれぞれにがんばった運動会、思い思いの感動の場面があったようですね。読んでいて楽しく、入賞者を決めるのに頭を悩ませました。10月は「家族のこと」のテーマで短歌を募集する予定です。

シリーズ「教室におじゃまします」9/27(水)4年道德の巻

この日の教材文は「ぼくはMVP」。「ぼく」はドッジボールのゲームでボールが自分の体に当たったことを誰にも気付かれな
 いままプレーを続けたことで、結果的にはチーム逆転勝利のヒーロー：MVPとして皆に賞賛されます。4年生に想像しやすい内容の話です。

この話を読む前に松島先生が「今日は『正直』ということについて考えてほしい」と話していたので、子供たちの思考が自然と本題に入りやすくなっていました。ボールが体に当たった気がしたときに「外野に行くか・行かないか」葛藤する「ぼく」の気持ちを子供たちが想像し、その発言を先生が上手く黒板に整理していきます。

「審判も仲間も気付いていないから、まあいいか」「まだボールを(内野で)投げたいし」「ばれなきゃいいよ！」という本音の気持ちと、「うそをついて勝っても気分がよくない」「負けても正直な方が気持ちが軽いと思う」という理想的な心。主人公の心を考えながら、そこにはそれぞれの子供自身の心が重ねられているように感じます。積極的に何度も発言する子がいて感心しました。

最後に、「A 正直に言う」「B 言わない」「C 言えない」「D その他」から1つ選び、ワークシートに考えを書き込みました。ここでも意見はいろいろ分かれていました。「正直」というのはなかなか難しいことだなと思います。



おまけの<ひとこと> 荻生の区民体育大会は本当に楽しい体育大会でした。私は一応大会役員の一員(「参与」でした!)としてテントの中にいたものの、子供たちと同じく学校の運動会とは違うリラックスした気持ちで大会の様子を見守っていました。荻生小唄も今回は子供たちと一緒にグラウンドに出て踊りましたし、保育所のお遊戯はテントの中で思わず身体を動かし、見よう見まねで楽しみました。3日(火)のあいさつ運動に来られた皆さんは口々に「楽しかった」「やってよかった」と喜びの言葉を話しておられ、夕方に来校された体協の浅野さんも「ほっとした」「ありがとうございます」と安堵の声でした。皆様お疲れ様でした。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。